



編集・発行
 熊本県立菊池農業高校
 同窓会 事務局
 TEL 0968-38-2621
 題字：越猪 忠祐
 (同窓会顧問)
<http://www.higo.ed.jp/sh/kikuno/>
 印刷
 株式会社 かもめ印刷

百十周年近まる!

そろそろ準備が必要か?

周年行事についてご意見下さい

熊本県立菊池農業高等学校同窓会

緑水会長 工藤靖成



思いながら、企画・立案・実行された関係各位に感謝したものでした。このような企画が出来るのも周年行事の落とし子であり同窓の絆強化となり母校繁栄の遠因となるはずです。

次回百十周年も何らかの行事を計画し緑水会並びに母校発展の起爆剤としたいと思っています。百十年の歴史に思いを馳せる時、只ただその重みを知らされていきま

時の流れは早いもので、十年ひとむかしではなくつい先日の感がしてならないのですが、また、周年行事をすべき年が近づき何をなすべきか苦慮しています。

先輩各位のご意見を賜りながら計画し、意義あるものにしたいたいものです。

大津支会の呼びかけで昨年八月の最終日曜日に緑水会会員有志によるゴルフコンペを開催しました。同窓っていいものですね!



始球式 (松永副会長)

年齢・学年の枠を超え、さも昔からの友人の様な振る舞いで会話が弾む様子を拝見し大変頼もしく

私の学生時代、熊本駅から東京駅まで汽車で二十四時間かかって行くのが最速の方法であったが、今では大阪まで二時間五十九分・大阪〜東京が二時間三十分なので

右記の写真は昭和三十一年に宮崎に旅行した時の乗車券であるが、見ている通り大人四百四十円だが学生はその半額、つまり二百二十円であった。

現在では熊本駅から数分の電田口までが二百二十円である。何とも言えない感傷にひたってしまう。



昭和31年の国鉄乗車券

平成十年まではパソコンを操作ができなくてもなんとか通用した。今ではパソコン操作の出来ない先生などどこにもない。

私もこの十年間パソコンとの付き合いがあるが、なかなか手の内には入らない、つまり、ワード・エクセル・Eメール・インターネット止まりでその先が皆目分からな



昭和30年代の公文書 (ガリ版刷り)

菊池の百十年前、つまり創立当初のころを考えている内に身近な自分の体験史になってしまいました。

日進月歩の時代の波に取り残されれない様互いに頑張りましょう。

創立百七周年目を迎えた菊池は、一万八千名有る卒業生を輩出しております。緑水会の会員として、現在の母校菊池を温かい気持ちで、煩惱を持って見守っていただいていることに深甚の感謝を持って、私は就任三年目の学校経営に当たっています。ご存じのように農業、園芸、畜産科学、食品化学、生活文化の五学科六百名の定員で、こ

常に「変革・変化」を模索しながら、学校スローガン「メイクヒストリー、大きく実れ」のもと、菊池生一人ひとりが輝き、一人ひとりの成果の結果が菊池の高い評価になるよう、教職員力を合わせて教えるべく、所存です。同窓の皆様方のさらなるご支援をお願いし、皆様方のご健康とご健勝をご祈念申し上げ挨拶とします。

つれづれなる中に、「変化」という視点で今を考える

校長 川田博史



ただ今、この原稿の依頼を同窓会事務局の本校家庭科福島美代子先生より引き受け、「変化」をキーワードに出稿してみようと思いましたが、そして校長室の机の上のパソコンに向かってキーをたたき始めました。今から三十二年前の一九七八年(昭和五三年)に郷里の鹿兒島から菊池農高講師としてこ

の地に赴任してから、随分時が過ぎました。そのとき高校三年生だったのが、原稿依頼の主福島先生です。その年五月に生まれた私の長女は、今は姿を消した花房奈ブール横にあった二階建て職員住宅の一室で育ち始め、今では男の子三児の母親です。福島先生から「掲載する写真は昨年のものでいいですか、それとも撮り直しますか」と投げかけられ、面倒ではないのですが面倒に感じる心が先に働いたように、そのままいいですと返答しました。そうでしたがすぐ気持ちを取り直して、今の私を撮ってもらうことにしました。昨年の写真の私と今年の写真の私は変化しているでしょうか。同窓の皆様にとってはどうでもよいことですが、昨年の緑水会報がお手元にあられたら、どうでもよいことですが比べて見てください。生物学的には確実に変化しているのが、動物として人間としての私です。

創立百七周年目を迎えた菊池は、一万八千名有る卒業生を輩出しております。緑水会の会員として、現在の母校菊池を温かい気持ちで、煩惱を持って見守っていただいていることに深甚の感謝を持って、私は就任三年目の学校経営に当たっています。ご存じのように農業、園芸、畜産科学、食品化学、生活文化の五学科六百名の定員で、こ

きていますが、今年の入学生は久しぶりに増加に転じました。農業教育に対する理解が入学生の増加に結びつき、農業教育の持つ魅力に順風として吹き始めているのかもしれない。熊本県も同じ傾向です。熊本県も少子化、地方の過疎化の歯止めがきかない中、地域の核として活躍してきた農業関係高校も学校再編の嵐の中にあり、阿蘇や矢部で具体的に再編が行われました。今後は天草の河浦高校が消えることになっていきます。そのような中でも、県下十二校三千七百人あまりの農業関係学科に在籍している生徒は、日頃の学習成果を農産物の販売やボランティア活動等を通して、広く県民の皆様と共有しながら、日々成長してきます。この熊本県の在籍数は北海道に次いで全国二番目です。今年北海道で開催された農業クラブ全国大会での入賞者数も四十七都道府県中三位でした。毎年全国上位を獲得しています。本校からも農業鑑定で四名の生徒が入賞しました。今年には口蹄疫の関係で家畜審査競技が行われず残念でしたが、全国で珍しい本校牛部が活躍できた、もっと輝いたことでしょう。馬術部は熊本県高校総体十連覇をなし、全国大会では今一步のところで入賞できませんでしたが、頑張っています。楽器購入で同窓会のご援助をいただいた吹奏楽部や太鼓部も県大会上位で頑張っています。体育系のその他の部も野球部、テニス部、バドミントン部、バスケット部などが力がつきつつあります。が、なかなか勝つのは難しそうです。

私の料理人生

佐々良清

(昭和42年度 農業化学科卒業)



平成二十二年三月に菊池農業高校食品化学科の一、二年生を対象に卒業生講話の依頼を受け、約四十年振りに学校を訪れました。校舎の一部は昔のまま、大変懐かしく思いました。生徒の皆さんから大きな拍手を頂き、今の自分の基礎は、菊池農業高校にあるのだと熱いものがこみ上げてきました。

私は現在六十歳、料理界に入っ四十数年余り。今は(株)熊本ホテルキャッスルの取締役総料理長として働いております。私は、旧菊池郡七城町の農家の次男として生まれました。料理の道に進んだのは、少なからず父の影響を受けたのだと思います。父は終戦後、農業に従事していましたが、私が生まれる前、米進駐軍の八景水谷駐屯地で軽食など作るコックをしておりました。その頃は話がよく聞かされたものです。それから私

自身、食に対する執着心が幼い頃から強かった事と食いしん坊だったせいもあると思います。また、小学校の家庭科の料理の時間が大好きでした。高校入試を考え始めた頃には、何の迷いもなく料理人を目指そうと決めていました。結果、少しでも役に立つようにと、食に関して学べる所が、菊池農業高校の農業化学科だったので。卒業が近づいてくると就職先を捜しましたが、当時はホテルやレストランからの募集は無い状況でした。しかし幸運にも担任の坂田先生の伝で、ホテルキャッスルに入社が決まり、私の料理人としての人生がスタートしました。私の他に熊本市内の高校からも三人が入社しました。初めて白いコックコートを着た時は感動しました。

最初の料理の仕事は、卵料理で、特にオムレツを上手に作れないと朝食作りのメンバーに加えてもらえません。仕事が終わってからは日オムレツの勉強をしました。卵がもつたいないので焼き塩をフライパンに入れて練習したものです。二ヶ月くらいでオムレツが上手に作れるようになり、朝食のメンバーに加えられるようになりました。入社したメンバーの中では一番でした。人一倍練習を積む事の大切さを実感しました。その後は先輩の仕事の準備などにも参加し、周囲や先輩達の顔を見て状況判断しながら仕事を進めていく事を身につけていきました。一度も遅刻をした事が無いのも自慢でした。洋食料理長になるまでの約三十年間、温かい料理専門で特にソースや煮込み料理を得意としておりました。

また、その間、色々と数多くの賞を頂きました。一九九七年フランス料理界では世界で一番権威のある会ですが、オーギュストエスコフィエ協会の会員になりました。翌九八年、全日本司厨士協会アカ



像もしなかった事です。生徒の皆さんの小論文は全て素晴らしいものばかりでしたが、その中でも私の心に響いた論文をここに紹介したいと思います。尚、お名前は省略しました。

「食と農の繋がりが、私はこの繋がりが切っても切り離せないものだ」という事を改めて感じた。ホテルキャッスルの総料理長である佐々良清氏の講話を聞き、とても嬉しくなった事がある。それは私達が通う菊池農業高校の出身であるという事と共に、今でも農業に深い関わりを持っていく事を知ったからである。ホテルキャッスルという熊本で最も有名なホテルの料理と言え、美味しい食材が使われている事は間違いない。その食材が熊本の地域農家の方々が大切に育てた物であるという事はとても喜ばしい事である。農業がなければ食材は生まれぬ。私は農業高校生である事に誇りを持つ事ができた。

そこで私は農業高校で更に食品化学科という事を理由として私達の高校で作られた食材を使い、私達自ら料理をする機会を設けてみてはどうかと考えた。月に一回程度、農業科が育てた野菜を使い、私達食品科が料理するのである。更にそれを全校生徒で食べれば、食と農業の喜びを同時に味わう事ができるのではないだろうか。私は食品化学科であるが、直接土と触れ合い、野菜を育てるという事はほんの少ししか行っていないように感じる。また、野菜を使って加工

品を作る事はほとんど無い。せっかく農業高校に来たのだから、生産から加工までの段階を行ってみたいと考えている。それを他の科と協力して行えばお互いの科を高め合う事に確実に繋がるはずである。佐々氏の行っている地産地消や安心安全な食材を使用する事をモットーとした食育を手がける「食と農のネットワーク」に近い取り組みを行いたいと感じた。今からの農業は発達していく必要がある。その為に、農業高校生である私達の取り組みが力になれるものなら嬉しい事である。農業があるからこそ食が生まれる。私は食と農業がそのような繋がりをもち続ける事を願っている。

古来日本は農耕民族でした。農業離れの激しい昨今、私達は「農業」について考えなければならぬ時期にきていると思えます。私達が幼少の頃は貧しさの中にも「食の旬」を楽しんでいたように思います。畑で採った野菜にじかにかぶりついたものです。それは本来の美味しさがありました。今のように季節を問わず食材が手に入る事は喜ばしい反面、本来の味を知らぬ子どもたちを作っている悲しさにも繋がっているのではないのでしょうか。原点に戻る、食に携わる一人として心からそう思います。

また、地域農家の方々と一緒に商品開発にも携わっています。後日、菊池農業高校の宮田先生から私の講話に対して、生徒の皆さんからの小論文を送って頂きました。私のとりとめのない話をこんなにも真摯に受け止めてくれた事を大変嬉しく思っております。次回は生活文化科の料理講習会を承っています。母校の生徒の皆さんと一緒に料理を作るなど想

Table with 7 columns: 科, 男女, 自営, 就職, 進学, その他, 合計. Rows include 農業科, 園芸科, 畜産科, 食品化学科, 生活文化科.



Table with 4 columns: 科, 就職先, 進学先. Rows include 農業科, 園芸科, 畜産科, 食品化学科, 生活文化科.

品を作る事はほとんど無い。せっかく農業高校に来たのだから、生産から加工までの段階を行ってみたいと考えている。それを他の科と協力して行えばお互いの科を高め合う事に確実に繋がるはずである。佐々氏の行っている地産地消や安心安全な食材を使用する事をモットーとした食育を手がける「食と農のネットワーク」に近い取り組みを行いたいと感じた。今からの農業は発達していく必要がある。その為に、農業高校生である私達の取り組みが力になれるものなら嬉しい事である。農業があるからこそ食が生まれる。私は食と農業がそのような繋がりをもち続ける事を願っている。

- ★獣医学科合格 3年 村山央樹君
★熊本県高等学校弁論大会(優秀賞)九州大会(激励賞)
★毎日農業記録賞 3年 音光寺由美さん
★緑水会ゴルフ大会 平成22年8月29日(日)大津カントリークラブで緑水会主催のゴルフ大会を開催しました。

Table with 2 columns: 日付, イベント名. Includes dates from 1月30日 to 11月14日 and events like 馬術部創部60周年記念祝賀会, 緑水会総会.

緑水会事業報告

平成22年